

岡山県高梁市の歴史的町並みの保全の継続的な取り組み



明治大学小林正美研究室

高梁市

応募事業概要

◎ 背景

近年、過疎化や少子高齢化が進む中、空き家や地目立つようになり、町並みの連続性が失われつつある。また生活スタイルの変化により、現代的な家屋や空き家、駐車場などが増え、歴史的町並みの維持困難な状況に直面していた。

◎ 経緯

- 1993年 学生によるシャレットワークショップの開始
- 1996年 たかはし町並みデザイン賞を創設
- 2010年 高梁市歴史的風致維持向上計画を策定

◎ 取組

まちづくり塾、歴史を活かしたまちづくりシンポジウム、歴史的町並み保存事業

◎ 成果

2020年 吹屋が「ジャパンレッド」発祥の地として日本遺産に認定

◎ 展望

歴史的な建造物の保存活用を図りながら後世に引き継いでいく

応募事業 所在地概要

◎ 吹屋地区

◎ 吹屋は銅山と弁柄で繁栄してきた地域である。1977年、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された特徴的な赤い町並みをはじめ、銅と弁柄に関連した歴史的建造物が受け継がれている。

◎ 2020年には「ジャパンレッド」発祥の地として、日本遺産に認定された。



開始前の状況

◎ 主な課題

歴史的町並み保全に対する動きは早くからあったが、住民にその意図が十分に知らされなかった。

1990年に誘致された吉備国際大学の開学により、伝統的な町家の幾つかが壊され、学生用マンションに建て替えられた。

建築物の構造・意匠が町割りによって異なるため、保存・修景するためのガイドラインが必要であった。



事業開始後の状況

1. 学生によるシャレットワークショップ（短期集中ワークショップ）を毎年夏季に継続して実施し、様々な景観保全へ繋がった。
 - 1) 基礎データ収集のため、街並みの形態・色彩などの調査の実施
 - 2) 子供や市民を交えたワークショップの実施
 - 3) デザインコードと補助金制度による町並み修復
 - 4) 個別建物の修復計画の策定と具体的な実施

2. 高梁市による積極的な施策により景観保全が推進され、内外から高く評価されると共に、観光事業が大きく展開されている
 - 1) 高梁市歴史的風致維持向上計画の具体的な実施
 - 2) 吹屋が「ジャパンレッド」発祥の地として日本遺産に認定

主要行動

◎ 学生によるシャレットワークショップ

1. 標準日程 4泊5日程度
2. 会 場 公共施設
3. 主 催 大学の研究室と市内の公共団体
4. 参加者 学生12～15名
5. 手 順 準備段階、予備調査
 - 1日目 基礎調査及びヒアリング
 - 2日目 詳細調査及び診断
 - 3日目 解決策の検討及び中間発表
 - 4日目 提案作成のための作業
 - 5日目 関係者へのプレゼンテーション

主要行動

◎ シャレットワークショップの様子



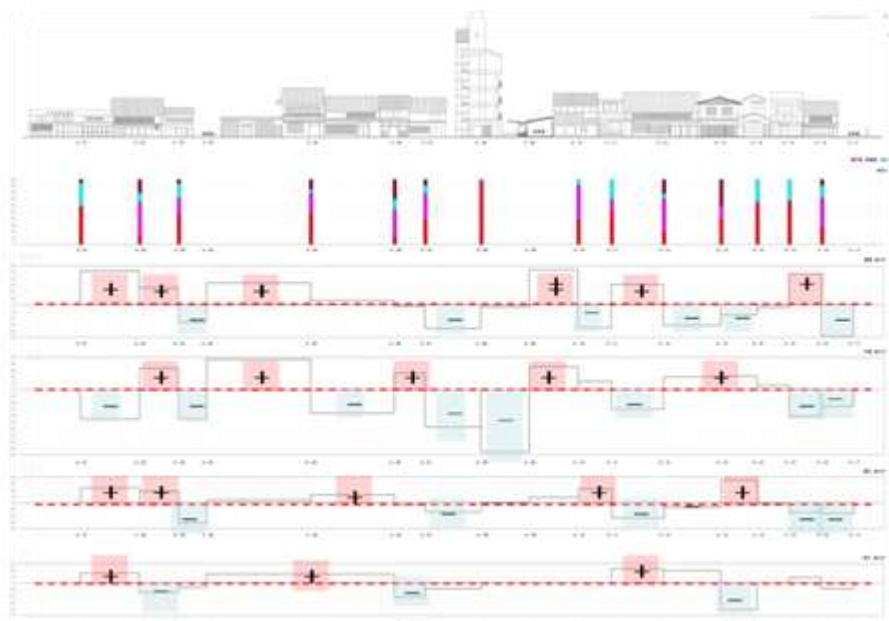
ワークショップの成果を市長および関係者に発表



市民に理解してもらいやすいように必ず模型でデザインを検討する

主要行動

◎ 町並みの形態と色彩の調査



本町の町並み調査結果

主要行動

◎ 子供のための町並みワークショップ



小学生を対象とした町並みワークショップを開催し、街並み景観への関心を啓発した。

主要行動

◎ 町並み景観の修復：デザインコードと補助金制度による町並み修復



従前写真

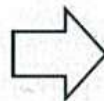


デザインガイドライン適用後

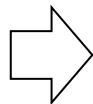
研究室による「町並みデザインコード」素案を基にした補助金制度により、31軒がファサードの修復を行った。

主要行動

◎ 町並みの再生デザイン



空き家の再生



蔵の再生



門の再生

ワークショップの成果をもとに、数々の空き家の修復、町並みの再生が実施された。

主要行動

◎ 歴史を活かしたまちづくりシンポジウム（2010年11月28日）



主要行動

◎ 旧吹屋小学校校舎保存修理事業



保存修理のため校舎解体



屋根の再構築



土の量を減らした筋葺き



完成した二重折り上げ棹縁天井



復元された明治時代の教室

周辺関連活動

◎ 高梁いろは塾



市民が、高梁市全域の歴史や文化、文化財や民俗芸能について関心を持ち、それらに対する意識の向上が図られるよう、歴史セミナーを開催している。

主催：高梁市（歴史まちづくり、社会教育）

周辺関連活動

◎ 備中たかはし松山踊り



毎年のお盆の時期、備中高梁駅前大通りで開催され、期間中は十数万人で踊り一色に染まり、その規模は県下一を誇る。

歴史は古く、江戸時代慶安元年（1648）、備中松山藩主水谷勝隆の時代に、五穀の豊穰と町家の繁栄を祈って踊ったのが始まりと言われている。

町衆から始まった「地踊り」と、武家に伝わった「仕組踊り」があり、現在では「地踊り」が中心に踊られている。

周辺関連活動

◎ ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会



自転車競技イベントを活用した新しい地域振興を推進し、スポーツ交流人口の拡大、および選手や関係者を通じた地域間交流のネットワーク化とその拡大を目指すため、高梁市では2011年から開催している。

コースは川沿いで農山村の景色を楽しみながら走り、最終ゴールには全国的にも有名な重要伝統的建造物群保存地区である吹屋の町並みを目指すというもので、他では味わえない特別なものとなっている。西日本最大級の自転車競技である。

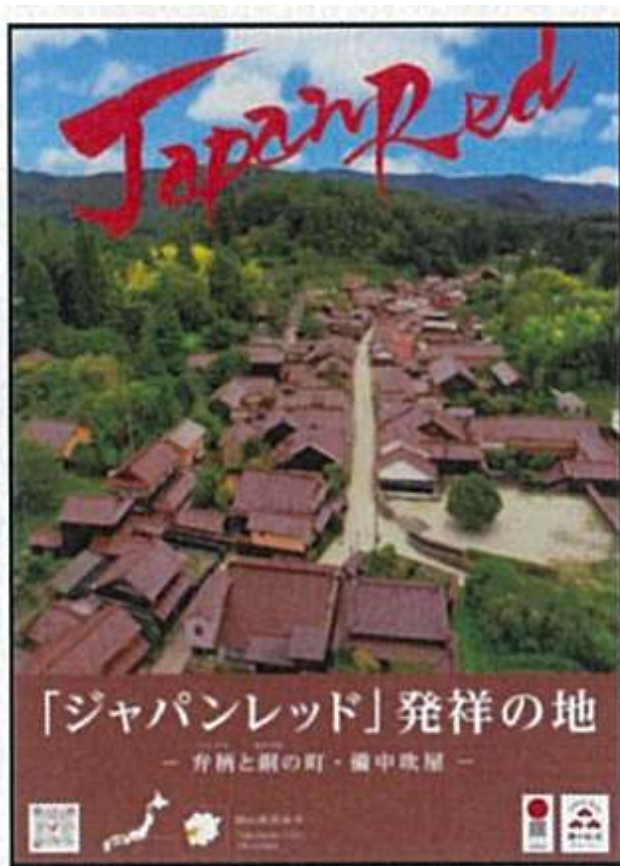
現在の様子

◎ 町家通りの雛まつり



事業の波及効果

◎ 日本遺産登録



日本遺産ポスター



ホームページ



日本遺産センター

事業の展望

◎ わたしあうまち (BRIDGING TOGETHER TAKAHASHI CITY)



わたしあうまち 高梁市

Bridging Together

TAKAHASHI CITY

昔から人やものを渡し合ってきた高梁川の高瀬舟。高梁の「梁」の字が持つ意味。大切に受け継がれてきた歴史、伝統、化。渡し合う挨拶やお裾分けの精神が今も日常に息づくこのまちは「渡し合い」にあふれている。

“つながり”を大切に“渡し合い”にあふれるこのまちは、「私に合う、私に似合うまち」であり、「本当の私に出会えるまち」であるという思いも込めている。

事業の展望

◎ わたしあうまち (BRIDGING TOGETHER TAKAHASHI CITY)

ロゴデザインは、この高梁の「梁（はり）」を表現し、色は吹屋を象徴するベンガラ色、山々の緑、高梁川の青を組み合わせている。クロスに交わるラインは+（プラス）にも×（カケル）にもなる。

つながりあい、わたしあい、ささえあい、足し算・掛け算をしながら高梁市の魅力が心地よく拡散していくことへの希望を込めている。



事業の自己評価

1. 地域環境に優しく、共存するものであるか
 - ・ 生態環境と調和していること (ecological environment)
 - ・ 人間性に立脚した事業であること (humanities)
2. 安全で利用者に優しく、持続性があるか
 - ・ 安全・安心で、快適であること (safety and amenity)
 - ・ 持続性があること (sustainability)
3. 地域の文化、歴史を尊重しているか
 - ・ 地域の町並みや生活様式等と調和していること (continuity)
 - ・ 地域の歴史や文化と調和していること (cultural tradition)
4. 芸術性が高いか
 - ・ 独創的で完成度が高いこと (creativity)
 - ・ 美しいこと (beautification)
5. 地域の発展に貢献し、他都市の模範となるか
 - ・ 地域の人々に受け入れられ、地域の発展に貢献していること (contribution)
 - ・ 他の都市や事業の模範になること (model project)

同事業の受賞実績

◎ 2013年日本建築学会教育賞
「岡山県高梁市における「シャレットワークショップ」手法による
大学連携まちづくり教育への継続的取り組み」

受賞者： 小林正美

[写真]

受賞理由：

座学による建築教育では仮想的な演習に終わる場合が多いが、実際の現場で環境の意味を読み取り、問題点を抽出し市民と話し合い、具体的なデザインによる解決策を提案するというプロセスは学生達にとっては貴重な経験であり、実践的教育効果は極めて大きい。

また、高梁市の行政関係者や市民と連携し、町並みを修復した功績は高く評価される。



関連参考写真



雲海の上の備中松山城



広兼邸



旧片山家住宅（重要文化財）

関連参考写真



備中神楽



備中神楽



渡り拍子

今でも伝統的無形文化の数々が息づいている